

学校再開、他の班へも思いを

およそ3か月ぶりに学校が再開しました。元気な生徒諸君の姿を久しぶりに見る事ができ、とても安堵しました。再開といっても「分散登校」のかたちです。長期の臨時休業も前例のないことでしたが、感染症に対するリスクを低減させるためとはいえ、生徒を2班に分けて交互に登校日を設けるというのも経験がありません。2週間で1週間分の授業数となりますので、当面の間、授業の進度は少しゆっくりとなります。1日ごとの家庭学習を有効に組み合わせ、復習・予習はもちろん、スタディサプリの機能も使いながら、自分の興味関心に基づいた学びを意欲的に行ってほしいと思います。

ところで、新しいクラスとなり、クラスメートとの関係もこれからというときに、しばらくの間は、登校した際に会えるメンバーと、会えないメンバーに別れている状態になります。1クラスあたり的人数が少なくなった状態と言えなくもないのですが、本来のクラスとしての一体感を持ちにくくなっているのではないかと危惧しています。この点については、申し訳ない思いです。

私たちは、物事を認識する際に名前を付けます。名前を付けることで、他と分け、認識した対象を際立たせることができます。例えば、身のまわりにある空気です。「空気」と名前を付けて呼ぶことで、「空気」を感じることができます。「空気」という言葉を知っているのに、空気が「ある」と思えます。「空気」という言葉がなければ、あるいはその言葉を知らなければ、空気・大気存在に気付かないのではないのでしょうか。名称を知り他と分けることは、概念や世界の認識に繋がっていくと思います。

だから、クラスのメンバーに対して、出席番号で奇数の班と偶数の班という名前を付けたことは、気をつけなければならないと思っているのです。そのことを頭の隅に置いておいてほしいのです。そして、全員で登校することが可能となったときには、無意識の内に作られてしまいかねない壁に穴を開けてください。意識して、多くの仲間との関係作りを始めてほしいと、今のうちから願っています。

「いかのおすし」「だしいりたまご」

次は、何やらお腹の空きそうな話・・・、ではありません。何のことか、ピンと来た人はいますか。これに「おはし」を付けても、食べ物の話になりそうですが、「おぜのかみさま」とく

れば、防犯などの標語に関するものだと気付いた人が多いのではないのでしょうか。

「いかのおすし」は、「行かない、乗らない、大きな声を出す、すぐ逃げる、知らせる」の頭文字をとった防犯標語ですし、「おはし」は小学校の避難訓練などで使われる「押さない・走らない・しゃべらない」を強調する標語です。

「おぜのかみさま」は、インターネットの利用に起因した犯罪被害等から青少年を守るため、群馬県で考案されたものです。「おぜのかみさま」、内容を言えますか？「おくらない(写真を)、ぜったいに会わない(ネットで知り合った者と)、のせない(個人情報のをせない)、かきこまない(悪口などをネット上に書かない。消せません!)、みない(有害サイトを)、さがさない(出会い系など、コミュニティサイトに要注意)、まもる(ルールを守り、ネット依存に要注意)」という内容です。

こうした標語ですが、ゴロは覚えていても、その内容が疎かになっていると何の意味もありません。是非とも、内容に着目して自分自身の行動変容につなげてください。

そうしたなか、最近マスコミなどで紹介されているのが、「だしいりたまご」です。今、ネット上にはおびただしい量の情報が出回っています。根拠の乏しい情報も数多くあります。「だしいりたまご」は、情報を見極めるための7つのポイントとして、外科医で、京都大学の大学院生でもある山本健人氏が発信しているものです。

「だ」誰が言っている？(情報を発信している人は、本当に専門家なの?)

「し」出典はある？(出典・根拠はあるのか?)

「い」いつ発信された？(時間が経って、評価が変わっている情報もある。)

「り」リプライ欄にどんな意見がある？(まずリプライ欄を見れば、「これデマじゃないかな?」と疑うことができる。)

「た」たたき(攻撃)が目的の投稿ではないか？(誰かを攻撃することが目的の投稿ではないか、一呼吸置いて考えてみよう。最近大きな問題となっている点でもあります。)

「ま」まずは一旦 保留。(見つけた情報を友達に教えたり、リツイートしたり、実際に試したり・・・、そうした行動を起こすのを、一旦保留してみる。冷却期間において冷静に判断。)

「ご」公的情報は確認した？(多くの専門家の「ご」合意である公的な情報を参考にするのが安全。) 参考にしてください。